

教育相談実施状況まとめ（平成30年度2学期分）

1 教育相談実施報告

	小学校（28校）	中学校（12校）	全体（40校）
教育相談実施人数 （実施率）	14490人 99.5（%）	6934人 97.9（%）	21424人 99.0（%）
いじめに関する情報の件数	826件	148件	974件

※「いじめに関する情報の件数」は、教育相談によるもの

2 教育相談を実施できなかった児童生徒への対応状況

- ・学級担任が定期的に家庭訪問を行っている。
- ・放課後登校の際に話をしている。
- ・家庭訪問により、保護者も交えて教育相談をした。

3 教育相談の実施状況並びに対応状況

※ H31.1.7～H31.1.29 に実施した指導主事による各小中学校への聴き取り訪問によるもの

(1) 「いじめに関する情報」について

※ 教育相談により「いじめに関する情報」を知り得た状況

- ・周囲の子どもからの報告（登下校中、学級、部活動、児童クラブ、SNS など）
- ・いじめられている子どもからの訴え
- ・いじている子どもからの報告
- ・学級の様子や雰囲気などに関する相談

(2) 「いじめ対策委員会」を中心とした組織による対応の状況

- ・月1回、定例のいじめ対策委員会を開催し、情報を共有するとともに対応策を検討している。
- ・各種会議において、いじめ事案について情報を共有する場面を設けている。
- ・塾でいじめが起こっていたため、いじめた子どもが在籍している学校や塾と連携しながら指導を進めた。
- ・教育相談により得られたいじめに関する情報は、各学級担任が取りまとめ、その資料をもとにいじめ対策委員会で対応策を検討した。
- ・対象の子どもに関係している全ての教員により、背景にも目を向けた対応策を検討した。
- ・ケース会議を開き、スクールカウンセラー等と連携しながら対応策を検討した。
- ・小規模校であるため、いじめ対策委員会は全教職員で協議している。
- ・保護者と連携しながら指導をした。

(3) 教育相談実施方法の工夫

- ・個人差が出ないように、まずは全ての子どもに同じ時間配分で教育相談を行い、気になる子どもには別途、時間をとって教育相談をした。
- ・アセスや心の相談アンケートの結果を効果的に活用するため、アンケート実施後、期間を空けずに教育相談を実施した。
- ・教育相談をするにあたり、スクールカウンセラーによる校内研修を実施した。

(4) 教育相談による効果

<教員が実感した内容>

- ・教育相談により、いじめに関する情報を知ることができた。
- ・担任が気になっていることを、あらためて確認できた。
- ・個々の子どもがストレスを感じている要因に気づくことができるなど、児童生徒理解につながった。
- ・普段の子どもの様子では分からないような人間関係に気づくことができた。

<教員の変化>

- ・些細なことでも情報を共有するようになった。
- ・学級内の全ての子どもと話すことで、学級全体での人間関係を踏まえて子どもに接するようになった。

<子どもの変化>

- ・先生が相談に乗ってくれるという安心感を持つ子どもが増えた。
- ・話すことが苦手な子どもでも個別であれば話すことができた。
- ・子どもが本音で話すようになった。
- ・先生に対する信頼感が増した。(アセスの結果にも現れていた)

(5) 今後の課題

- ・「いじめの正確な認知」に関する共通理解をより徹底する必要がある。
- ・「言わないでほしい」と子どもが訴えた場合、情報共有や連携をどのようにすべきか。